

昭和53年に成田空港が開港して以降、成田市では、外国語教育と国際交流を進めていきました。また、中台運動公園陸上競技場(現重兵衛スポーツフィールド中台陸上競技場)や市立図書館など、スポーツ・文化施設が整備されていきました。

昭和55年～62年の出来事

昭和57年	4月	外国人講師制度が開始
	4月	大栄中学校が開校
昭和58年	6月	中台運動公園陸上競技場(現重兵衛スポーツフィールド中台陸上競技場)がオープン
	4月	成田山新勝寺平和大塔が落慶し記念開帳
昭和59年	6月	市体育館(現重兵衛スポーツフィールド中台体育館)がオープン
	10月	市立図書館がオープン
昭和60年	2月	東関東自動車道成田～大栄間が開通
	4月	国鉄(現JR)成田駅西口広場がオープン
昭和61年	4月	大栄B&G海洋センターがオープン
	12月	大栄工業団地が完成

成田駅西口広場の整備が進む

昭和47年から成田ニュータウンの一般入居が始まりましたが、当時の国鉄(現JR)成田駅の西口側は整備されておらず、交通の便が良くない状態でした。

そこで、昭和49年から土地区画整理事業が開始され、昭和61年4月に現在の西口広場が完成しました。バスターミナルやタクシー乗降場、大規模な駐輪場が整備され、歩行者の安全を考えて作られた歩行者専用デッキには、駅の自由通路につながるエスカレーターも設置されました。



歩行者専用デッキなどが整備される

①全天候型の中台運動公園陸上競技場(現重兵衛スポーツフィールド中台陸上競技場)②たくさんの蔵書がそろった図書館③外国人講師による英語の授業がスタート④ホームビジット制度で外国人観光客と交流⑤大栄中学校の開校を知らせる「広報たいえい」

学校と昭栄中学校の2校がありました。

昭和58年4月、この2校が統合され、大栄中学校が開校。広報たいえい(昭和58年4月特集号)では、8ページにわたり、新しい校舎の配置や校歌、校章のほか、生徒や地域の人たちの声を紹介しています。

大栄中学校は、令和3年に大栄地区の小学校5校と大栄みらい学園に統合されました。

下総町でレンコンの栽培が始まる

昔から早場米の産地として知られていた下総町では、国の減反政策がきっかけで、昭和62年、野馬込地区の4戸の農家がレンコン栽培を開始しました。栽培に向かない土壌など不利な条件を乗り越え、独自の土壌改良とたゆまぬ努力で、色が白く、栄養価が高いレンコンの栽培に成功しました。

その後も、年間を通して出荷できるようにするため、栽培方法を組み合わせ、市場を意識した販売戦略にも取り組んでいきました。その結果、平成12年には、下総蓮根組合が日本農業賞大賞(集団・組織の部)を受賞するなど、下総町の特産品となりました。

国際化と街並みの発展が進む



外国語教育と国際交流

昭和53年に成田空港が開港した成田市では、子どもたちに国際感覚を身に付けてもらおうと、昭和57年4月から外国人講師による英語の授業が実施されました。主に中学1年生の英語の授業で取り入れられ、発音の習得だけでなく、ゲームや歌を通じて英語文化になじんでもらう内容となっていました。

また、成田空港を利用する外国人観光客をターゲットに、ホームビジット制度も始まりました。これは、市内の家庭を訪問して日本の日常生活に触れてもらい、国際親善に役立たせようとするもの。

そのほかにも、外国人観光客にお茶や折り紙などを楽しんでもらう「日本文化のつどい」が始まるなど、さまざまな形で国際交流が図られていきました。

スポーツ・文化施設の建設が進む

成田市では、市制施行30周年を記念して、昭和58年6月に中台運動公園陸上競技場(現重兵衛スポーツフィールド

中台陸上競技場)が、翌59年6月には市体育館(現重兵衛スポーツフィールド中台体育館)、同年10月には市立図書館が開設されました。

陸上競技場は、雨の日でもトラック競技などが行える全天候型のものとなりました。当時、県内に全天候型の陸上競技場は県陸上競技場しかなく、市町村による建設は初めてでした。体育館のアリーナは、2,350平方メートルの広さを誇り、当時としては県下一のものとなるなど、県内随一のスポーツ施設となりました。

市立図書館もまた、当時の市町村立図書館としては県内最大の建築面積となりました。蔵書として空港関係の本や外国語の原書が豊富に取りそろえられました。

また、大栄町では昭和61年に大栄B&G海洋センターがオープン。バレーボールやバスケットボール、卓球など、幅広い屋内スポーツが楽しめる体育館のほか、25メートルプールが備えられました。

大栄町で大栄中学校が開校

昭和30年に町制が始まって以来、大栄町には大須賀中